

(仮称) 富士宮市立郷土史博物館基本計画策定委員会

会議録（案）

場所	令和 7 年 9 月 1 日（月）10:00～12:30
日時	富士宮市役所 1 階 112・113 会議室
出席者	委員 小笠原委員（◎）、北垣委員（○）、大高委員、 渡井（正）委員、渡井（一）委員、芦澤委員、 高橋委員、諸星委員、齋藤委員、井口委員
	事務局 富士宮教育委員会 石川教育部長 教育部文化課 中野課長、渡邊係長、保竹学芸員、松本学芸員 高橋学芸員、原学芸員、柿崎学芸員、三上学芸員
	オブザーバー （株）丹青社 中尾、大木、外山

内 容

1. 開会

○主催者挨拶

2. 議事

（１）市民説明会および「郷土資料館の歩みから博物館を考えるフォーラム」の実施報告

事務局	* 資料 1 「（１）市民説明会および『郷土資料館の歩みから博物館を考えるフォーラム』の実施報告」、別紙 1 「市民説明会でいただいたご意見」、別紙 2 「フォーラム アンケートご意見抜粋」について説明
委員	せっかくなので、フォーラムにご登壇いただいた各委員からも、ご報告をいただきたい。
委員	フォーラムには反対派、肯定派ともに参加いただけた。時間が押してしまい質疑の時間が取れなかった。個人的には、「博物館が必要なのは分かるが、なぜこの時期に整備するのか」というご意見が多かったように思う。
委員	参加された方は非常に熱心に話を聞いていらした。フォーラム後も質問を多くいただいた。事業費に関する心配もあるが、市民の関心や期待が高いと感じた。

（２）第 1 回ワークショップの実施報告

事務局	* 資料 2 「ワークショップ実施報告」と別紙 3 「ワークショップでいただいたご意見」について説明
委員	ワークショップの参加者 14 名は一般公募の方か。
事務局	公募による参加者である。
委員	参加者 14 名の年齢層を教えてください。幅広い方々の意見をいただく必要があると思う。
事務局	30 代から 70 代まで幅広く参加いただいた。

委員	年齢や性別の偏りは無かったか。
事務局	年齢の高い方の参加が多くあった印象である。
委員	ワークショップには、博物館をつくりたいと考えている方が参加されたのか。
事務局	必ずしも賛成ではない方にも参加いただいた。そうした方は、つくるのであれば、ということでご意見をいただいた。
委員	元々は、何名まで募集していたのか。
事務局	30 人を上限としていた。
委員	ワークショップは市民から比較的気軽にご意見をもらえる場である。フォーラムでは「意見を伝える場がなかった」という指摘があった分、重要な機会になると思う。申し込んだ方に参加いただくという形は、どうしても関心が高い方に偏ってしまう。たとえば学校に伺うなど、各地域から積極的に様々な意見をもらえるように工夫してはどうか。第 2 回ワークショップの募集方法や開催方法は検討いただきたい。
事務局	2 回目は 1 回目に参加いただいた方に継続して参加いただく予定である。ワークショップでは計画の内容についてご意見をいただきましたかったこともあり、意欲的な方を公募制にて募集した。
委員	ワークショップでは、出た意見を元にその場で議論は行われたのか。
事務局	まず、グループに分かれて議論してもらい、各グループで出た意見を他のグループにも聞いてもらった。それを踏まえて、博物館に関する意見や感想をいただいた。
委員	意見を集めるのが趣旨であれば、ワークショップ形式ではなく、ホームページ等で不特定多数の意見を集めるといった方法もある。もう少し、方法を検討してはどうか。
委員	ワークショップでは、学芸員が各グループに入って議論をしたとのことだが、学芸員のワークショップに対する印象を伺いたい。
学芸員	文化財や博物館に関する意見のほかに、富士宮市の良いところについて意見を伺うことができ、自身では見過ごしてしまう視点を聞く良い機会となった。
学芸員	自分も富士宮市出身であるが、「東京への交通の便が良い」「自然環境が良い」など、地域に関心を持っている方が多いと感じた。また、歴史の負の側面に関する展示も必要であるという意見があった。
学芸員	私の入ったグループには、お子さんがいらっしゃる方が多かった。お子さんに富士宮市を伝えるための施設として、市の特徴の一つである水を生かした体験型のアイテムを入れて、富士宮市について学べるような環境にしてほしいという意見があった。
委員	各グループが意見をまとめた模造紙を見たかった。議論の痕跡も模造紙から見ることができるので、模造紙を撮影した写真があれば拝見したい。 積極的かつ突っ込んだご意見を多くいただいたのだと思う。ワークショップを行うと、ネガティブな意見も出てくるが、それに対するアイデアが出てくるのがワークショップの特徴なので、次回も是非開催してほしい。 市民説明会やフォーラムは、今後も引き続き行う予定があるのか。
事務局	当初計画していた市民説明会は全て終了した。今回の計画が形になった段階で、また実施できればと考えている。
委員	博物館という名称の施設をつくることについては概ね理解をいただいているようであるが、議会に通していくためには、インパクトのある方向性が必要だ。自己満足ではなく、市民に必要なものであることを訴えられるよう意見をまと

	めなければならない。これは基本計画の前の段階の問題だ。
委員	そこに至る為に、こういった博物館をつくるのかといったコンセプトを整理したうえで、市民の意見を聞きながら議論すべきである。
委員	基本計画の範囲のなかで具体を示し、市民の理解をもらえるような内容づくりが必要ではないか。ワークショップも参加したが、感覚でしかないと感じた。議会を説得するほどの内容を作らねばならないのに、事務局の作文を読んでいるだけで、前に進んでいる感じがしない。委員会は残り3回ほどだが、納得できるような形に基本計画はまとまるのか。
事務局	議論を段階的に進めながら、市民に納得いただける基本計画を策定したい。専門家の視点だけでなく、さまざまな立場からご意見をいただきながら内容を整えていきたい。
委員	井口委員のご意見には重要な部分もある。インパクトのある表現というのは役所的に難しい部分もあるかもしれないが、井口委員のご意見も踏まえて検討いただきたい。
事務局	1回目のワークショップでは意見を出すにとどまったが、2回目のワークショップでは、1回目に出た意見を踏まえた議論をしながら、意見をまとめていきたい。
委員	ワークショップでいただいた意見の一覧だけを見せられても、我々としては理解ができない。参加者がワークショップを行った結果にどのような感想を持ったのか、議論の方向性はどのようなものだったのかを知りたかった。まとめかたについては工夫してほしい。
委員	井口委員の仰る「インパクト」は具体のことだと推察するが、次に議論する参考事例はまさに具体である。他事例を参考に議論をすすめていけば、より具体的になっていくと思う。
(3) 参考事例調査の報告	
丹青社	* 資料3「参考事例調査（市原市歴史博物館、品川歴史館、茅ヶ崎市博物館、ミュージアム都留、刈谷市歴史博物館、諫早市美術・歴史館）」について説明
委員	事例6施設はすべて人口12万人ほどの自治体規模か。
丹青社	富士宮市と近い人口規模という視点では絞っていない。前回の委員会でご議論いただいた通り、富士宮市の魅力を伝える施設のあり方を検討するうえで参考となる施設という視点で選定した。 市原市歴史博物館：市民と一緒に作成した周辺マップや、屋内型体験施設での体験講座が充実している。市の指定文化財の鉄剣展示は館の特徴としてシンボリックに展示している。 品川歴史館：近年リニューアルした。大森貝塚等の遺跡や文化財を品川区の財産として捉え、区内の子ども、区民、区外の観光客と幅広いターゲットを設定。品川の歴史を大型スクリーンで紹介するアニメーション展示。コミュニケーションを取りながら自由に学べるスペースも完備している。オリジナルグッズも開発して販売している。 茅ヶ崎市博物館：市民主体で地域資源を研究・紹介する活動が積極的に展開されている。こうした活動と連携し、博物館が市民とともに活動していくことを掲げている。図書館機能を併設している。 ミュージアム都留：歴史的行事や文化財等の情報発信等をとおして、シビックプライドの醸成に寄与することを目指している。祭りの屋台や山車を展示室で公開している。 刈谷市歴史博物館：地域の祭りの継承に寄与することを目指している。地域の外から訪れた人にとっては地域の特徴をより感じる内容となる。

	諫早市美術・博物館：地域の交流を促す施設。歴史展示のほか、諫早市ゆかりの芸術家の作品を展示する通路展示がある。民俗資料の展示では日の入りから日暮れまでと、一日の明るさを表現する演出照明を取り入れている。眼鏡橋の構造がわかる積み木など、子どもも楽しめる要素を取り入れている点は参考になる。 全てを取り入れるというのではなく、参考事例の各特徴を富士宮市であればどのように生かせるかという点で、ご議論の参考としていただきたい。
委員	「公開承認施設」とは何か。
委員	国指定文化財を展示するためには国からの許可が必要になるが、公開承認施設として認定されると許可申請のための手続が軽減される。公開承認施設になるには、それなりの設備を備える必要があり、整備コストがかかる。市原市史博物館には「王賜」銘鉄剣という国宝や重要文化財にも指定されうる資料があるため、しっかりとした設備を備えている。設備が整っていない施設の場合は、レプリカを展示するケースが多い。
委員	富士宮市の国宝は預けているので、富士宮市に関係ない話ではないか。
委員	静岡県に預けているので、富士宮市が現状必ず求めなければならない許認可ではない。
委員	地域連携や活動、テーマなど、選定方法は富士宮市の考えに合っているのか。今一度、施設の選定理由を聞きたい。
丹青社	富士宮市が長年、取り組んできた「歩く博物館」事業や「富士山学習」といった特徴的な取り組みを、発展的に活用する方法を探る上で、富士宮市同様に地域連携を生かした類似施設という観点から選定させていただいた。
委員	今回事例として挙げられている6施設は、どれも郊外にあるものだ。郊外なので広い敷地が確保でき、拡張性もある。整備候補地の話とも絡むが、郊外型の博物館だけでなく、都市型の博物館の事例も欲しいところだ。郊外型の博物館と都市型の博物館とでは、できることが違ってくると思う。今回の調査対象にはないが、松本市立博物館は市街地の真ん中にあり、1階部分が市民に広く開かれている。私が訪問をした時も、博物館の2階・3階にある展示室は17時に閉まったと思うが、1階の無料スペースは21時まで開いており、高校生たちが勉強していた。市民が欲しいと思う博物館のイメージに近いのではないかな。 参考にしたい館の映像を、市民説明会等の機会に見せたら、市民が欲しいと思う博物館も具体的にイメージが浮かぶのではないかなと思う。現段階では、予算規模に合わせて事例施設を絞る必要はないと考える。
委員	学校を改装して、運動場を駐車場にしたような施設にするのはどうか。少子化で学校が余るはずで、そういう方針でも検討したら市民も納得できるのでは。
委員	静岡県内にも「ふじのくに地球環境史ミュージアム」等廃校活用の博物館の事例はある。増えてきている事例だとは感じる。
委員	廃校は、耐震の問題など物理的に難しい部分もあり、結果的に新築よりコストがかかる場合もある。選択肢の一つとして考えるのは良いが、廃校ありきで考えるのはリスクがある。
委員	廃校ありきで考えるのではなく、廃校利用の検討というステップを踏むべきではないかという提案である。たとえば、まちなかの小中学校が小中一貫校になり、一方が空けば、そこに建てることができるかもしれない。
事務局	富士宮市に休校は2校あるが廃校はない。現段階で博物館整備地として廃校の活用は検討しがたい状況である。
委員	本委員会ではどのような博物館をつくるのかを検討しているのだと思う。現時点で、廃校予定の施設を私の立場で申し上げることはできない。

事務局	教育部として学校については別途協議している。現時点で博物館整備地として廃校跡地を想定するのは難しい。
委員	品川歴史館と茅ヶ崎市博物館について、面積規模に近いのに、茅ヶ崎市の入館者数が圧倒的に多いのはなぜか。
丹青社	品川歴史館はリニューアル前の数字なので、現状と相違がある可能性がある。
委員	だとしても差が大きい印象がある。立地の特性上、茅ヶ崎市の方が数が小さいなら納得できるが、何か原因があるのか。年間来館者数の中で、学校利用がどのくらい含まれているのか。地域にとっての利点を考えると、学校教育で有効に使ってもらえる施設が望ましいので、そういう情報がほしい。各施設、各自治体によって活用方針が異なるので、学校利用の差もあるかもしれない。また、駐車場の有無や台数も影響を与えている可能性があるので、そこも追加で調査してほしい。
丹青社	承知した。
委員	リニューアル後は変わったかもしれないが、品川歴史館は地域連携の活動はほとんど行われておらず、学校教育での利用もなかったと思う。
委員	茅ヶ崎市は図書館利用者の数も含まれている可能性がある。博物館利用者としての数字で比較したい。また、館の有料・無料での差も考えられる。料金に関する情報も追加してほしい。
委員	品川歴史館のショップについて、直営でやっているのか。外注でやっているのか。学芸員も絡んで商品開発などやっているのか。
丹青社	現段階で情報はないので、追加調査を行う。
委員	市原市歴史博物館のミュージアムグッズは学芸員が商品開発している。市原市歴史博物館は直営だが、受付、警備業務、ミュージアムショップの運営は民間業者に委託している。そのため、グッズの売り上げに関する売上配分は複雑だ。
委員	松本市立博物館は、カフェ、ミュージアムショップ、受付を民間に委託している。学芸員がミュージアムショップと連携して、企画展に合わせてオリジナルグッズを開発している。
委員	千葉県県の県立博物館は、全ての施設でカフェを併設していたが、いずれも撤退してしまった。都市型の博物館で、平日の集客が見込めず、カフェの経営が成り立たなかった。採算度外視で入っていた店舗もすべて撤退してしまった。
（４）事業活動計画（案）・ネットワーク計画（案）	
事務局	* 資料４「事業活動計画 検討資料」、資料５「ネットワーク計画（案） 検討資料」について説明について説明
委員	（２）ネットワークの展開で、県内外の博物館施設にある <u>奇石</u> 博物館の誤字がある。
事務局	修正する。
委員	（２）ネットワークの展開例の表内、行政の主な連携先の欄は課単位ではなく部単位が良いのではないか
事務局	具体的な活動に紐づくのは課単位なので、連携先として課を記載した。
委員	他部の課に直接、指示できないのではないか。部の理解と連携がないと叶わないのではないか。

事務局	部長から指示出しするイメージではなく、あくまでも「連携」という視点であることをご理解いただきたい。
委員	縦割りではなく横の連携を持つことは博物館の運営上で重要であり、教育委員会任せの博物館ではないことを、役所全体の共通理解としていただきたい。 事業計画はこれで良いと思うが、博物館ができたことによるメリットを整理しておいた方が良い。これは開館後、博物館の評価にも使える。何も指針がないと、KPIとしての入館者数に引きずられることになる。質的な評価が先行して、後から数が来る評価が望ましい。簡潔な言葉で博物館のメリットを特出ししておくが良い。それがまた市民に訴えかける言葉にもなっていく。
事務局	承知した。
委員	情報の発信について、こちらから発信する視点で記載しているが、自分たちで発信するには限界がある。インフルエンサーなどプロに協力してもらうことも視野にいれてはどうか。インバウンド利用も想定されるので、多言語対応も含めた情報発信が必要になる。そのためのプロとの連携を考えてほしい。その際の方針も明確にする必要がある。動画配信の場合、配信して良い内容の線引きもある。多言語対応という意味でも、プロとの連携も考えてはどうか。
委員	教育と普及について、博物館からの展開や提供についての記載が並んでいるが、学校の先生に博物館に入ってもらい、一緒に博物館を作っていくシステムを取り入れ、学校や教員との連携を図るといった視点を持つと良い。実際に博物館に学校の先生が入っている事例を参考にしてみてもどうか。
委員	岐阜県的美濃加茂市あるいは多治見市の博物館だったと思うが、体験プログラムだけで一冊の報告書になっている。学校の先生との連携について参考としてはどうか。また、学校の先生は非常に多忙なため、博物館に来たときは自由になりたいので、博物館に任せたいという。このようなことも含めて、先生方のご意見を聞いて、より効果的な連携の方法を探ってはどうか。
委員	子どもたちが見学に来たときに、学芸員が説明しすぎて、子どもたちが主体的な学びが行えないといったことがある。このあたりについても、学校の先生に中に入ってもらって検討できると、学校教育との連携がより良いものになるのではないかな。
委員	学芸員は、見学に来た児童生徒が、どの学年がどの段階まで学習が進んでいるのか、一般が理解できる用語を使って説明したとしても必ずしもその年代で理解できる内容なのかどうか学校現場のことは分からない。そのため、あまり理解しないまま帰られてしまうような状況に陥らないようにと、結局、最初から最後まで説明してしまっている。そのあたりは、学校の先生のご意見を聞かなければ分からない。学習内容の共有に関しても、学校教育と連携していく必要がある。
委員	「富士山学習」は、子どもたちが主体的に課題を設定して進めている。学芸員に説明いただくのも良いが、子どもたちが探求していくようにしたい。子どもたちは、自分たちで課題を見つけ、博物館に見学に行き資料を集めるといったように、主体的に学習を進めており、学校の先生はそれを見守るような形だ。逆に、学芸員に学校に来てもらい、子どもたちが探求する様子を見ていただき、詳しい解説はせずに足りないところを補うといった対応をしてもらえると良いのではないかな。学校の先生が博物館に入るだけでなく、学芸員が学校に来てもらうという連携のしかたも考えられる。
(5) その他	
事務局	* 資料「検討の進め方」を説明
委員	井口委員も心配されているが、立地の検討に関し、当初のスケジュールを踏まえると、10年先でないと整備地が確保できないというのは現実的ではないと考えている。事務局は立地をどのように検討するイメージか。候補として挙げら

	れている場所などを検討していくのか。
事務局	基本計画では、立地の検討のあと、施設整備計画等具体の検討に入る予定である。委員会では、候補地の中からどこが適当かを議論いただく。次回は、候補地の中から富士宮の博物館に適した場所を1箇所絞っていただきたい。
委員	どういう博物館をつくりたいのかということが第一ではないか。施設整備計画が立地検討の後にあるのはおかしいのではないか。どういう博物館をつくりたいか、何のためにつくるかという話があって、どこにつくるかというのは、その後だ。この流れでは立地ありきの検討のように思う。
事務局	どのくらいの規模であれば市民の理解を得られるのかという課題もある。新築の博物館ではあるが収蔵まで一括完結させずに、既存施設を利用していくというのが大まかな方針となっている。まずは立地を決めたい。
委員	基本構想策定委員会で博物館の方向性を策定し、それに対して市民の意見を聞きながら現実的な候補地が絞られてきた。まず理想があって、立地を検討し、それを現実に落とし込んでいく作業にこれからなるのではないか。事業計画を決める段階では、理念はまだ生きていると考えている。
委員	市民は、さらら駐車場か白糸の滝の2択と誤解しているようだ。委員は博物館の方向性を分かっているが、市民への周知はまだできていない。市議から反対意見も出ていることもあり、事業に対する市民の印象もあまり良くない。大高委員のご意見にあった、都市型のイメージと郊外型のイメージについて、まず委員会で共有する必要があるのではないか。
事務局	立地の検討の中で、郊外型・都市型の特徴を比較できるような材料を提示したい。
委員	時間も迫っているので、事務局に議事をお返しする。
事務局	次回は10月6日（月）14:00から開催する。第4回委員会の日程調整も早めに連絡させていただく。 以上で、第2回（仮称）富士宮市立郷土史博物館基本計画策定委員会を終了する。